

校長室の窓から

中野区立塔山小学校長 村越昌昭

平成20年6月17日 NO. 8

「へんだな！！どうしてだろう？」回路

先日、6年生のI君から手紙をもらいました。学校にいる子どもから手紙をもらうことなど滅多にないことなので、何が書いてあるのだろうと思いながら封を開けて読んでみました。手紙はとってもていねいな文字や言葉で書かれていました。



手紙には、I君が学習をしている中で「へんだな、どうしてだろう。」と感じ・考えたことについて書かれてありました。それが理科に関係があることなので、私のところに手



紙を書いてくれたのでした。手紙を読み終えて、とってもうれしくなりました。授業中に自分で考えながら学習をしていると、必ず「へんだな、どうしてだろう。」と思うことが出てきます。ふつう、こういった場合は疑問を解決しないままにしてしまいがち

ですが、I君ははっきりしないと落ち着かない気持ちになるので、手紙を書いてくれたのだと思います。



現在、学校では子どもたちに考える力を身につけていけるような取り組みをしています。自分で説明しようとしても説明ができない現象や事実と直面したとき、人は疑問をもちます。(考えるという行為ではないですが、似ている行為に、知らないことを知りたいという知的な好奇心もあります。)疑問をもてない子、疑問はもってもそのままにしてしまう子、疑問はとことん解決しようとする子といろいろですが、ぜひ最後のような子どもに育ててほしいと思います。考えることは楽しいことです。その楽しさを一人でも多くの子どもたちにわかってもらいたいです。どの子にも、「へんだな！！どうしてだろう！？」回路が身につくように、授業でも取り組んでいきます。

封書の手紙

さて、話は変わりますが、封書の手紙を子どもたちが書く機会はどんどん減っていると思います。電話、メールなどがとっても身近になり、子どもたちも手軽にできるこうした方法でコミュニケーションをとっていると思うからです。こうしたときこそ、封書の手紙のよさを見直してみるのはいかがでしょうか。文を書くということは必ず読み手がいるはず



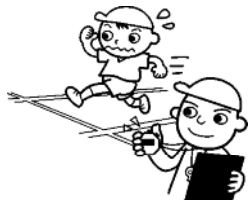
です。日記の読み手は自分自身、感想文は書き手の人や他にも読んでほしい人たち、宛名の人だけに真剣に読んでほしいという場合もあると思います。自分の気持ちや考えを相手にわかってもらうためには、書き方を工夫しなければなりません。言葉もよく吟味しなければなりません。誤字などないように気をつけたり、字の美しさや文のつながりにも気をつけた

りします。これほど頭を使う作業は他にあまりありません。しかし、そこが面倒くささになってしまい、ついついメールや電話で済ませてしまっているというのが実情ではないでしょうか。人が成長するためには、ある程度の負荷がかかっている必要があります。面倒だから、苦しいから、大変だからなどの理由で、頭を休めていたのでは能力の成長は見られないような気がします。子どもたちにもぜひ手紙のよさを知ってもらい、時には手紙を書く習慣を身につけてもらえればと思っています。

運動や外遊びと体力の関係



スポーツテストが行われました。毎年、スポーツテストを行うことで基礎体力や個々の運動能力の向上を図ることが目的で行われています。学校としても、昨年度からこれまで以上に子どもたちが体を動かすことができるような体力向上プログラムを実施してきました。例えば、中野区で推奨されているフラッグフットボールを積極的に導入したり、なわとびや持久走の期間の延長をしたり、体育授業時の運動量を増やす工夫をしたりしています。また、日常的に体力づくりに取り組めるような施設・設備も考えています。今後、中野区の支援によって体力向上アシスタントも派遣してもらえることになっています。これから始まる、水泳指導でも十分な練習量を確保できるようにしていきたいと思っています。当面は、運動能力というより体を動かす習慣づけという意味で、数多くの運動場を準備して、運動量の確保をしていくことが大切だと考えています。



運動（量）不足というのは、以前は主に大人に使われる言葉であったと思うのですが、最近は子どもにもよく使われるようになってきました。かつて、子どもの日常的な運動は外遊びでした。外遊びを通して様々な動きを夢中であることによって、知らず知らず運動量も確保されていたし、運動能力も自然に培われていました。（単純な「おにごっこ」と呼ばれる遊び1つを取り上げても、敏捷性、持久力、走力、体をコントロールする力など様々な体力や運動能力を培っています。）

最近の外遊びを見ているとボールがないと遊べない子が多くいます。ドッジボールやサッカーも悪くはないのですが、それだけではいろいろな体力、運動能力が育ちません。いろいろな遊びをすることが大切なのです。よく、土日に野球やサッカー、水泳に所属しているから、安心ですといわれる人もいますが、運動量の確保と決まった運動能力の向上は期待できますが、それで十分とはいえません。どんな運動にも、進んで親しんでいくことが大切だと思います。そういった意味から、もう一度外遊びを見直していく必要があると思います。今後は子どもの遊びを企画していく遊びのコーディネーターというのにも必要になってきますね。

家の中で遊ぶゲーム類の普及、テレビや漫画などを見ながらのんびり過ごすのが好きな子の増加、習い事などのために遊ぶ時間の減少、安全な遊び場の減少と子どもが外遊びをしにくい状況がますます増えてきます。キッズプラザ塔山が十月から始まりますが、こちらへの期待は大きいです。ぜひ、子どもたちの遊びを活性化してほしいと思います。